

平成 20 年 4 月 1 7 日

第 1 回 研究全体会

校内研究の進め方（案）

1. 修二校校内研究のミッション

個々の教員の教職に対する熱意と向上心にあふれた研究を目指す。そのために、個人の創意工夫を大事にして、互いの研究を支え学び合う校内研究風土を作ること大切にする。学び合う教師集団から学び合う子どもが育つ。修二校の研究は、実践から何らかの理論を構築したり、ある学者の方法論に基づいて実践したりというスタイルはとらない代わりに、既成や切り貼りの指導案を無批判によしとすることなく、自己の理想に向かって自学級児童にとっての最良の授業を探究するものである。個々の教員の知恵と最良の授業の総和が「修二校の研究」である。部会や研究委員会は授業者を側面から支える。お互いが、研究の目的を共有し、過程を協働し、結果と責任を共有することで、修二校の国語科学習が充実し、本校児童の学びを伸展させると考える。

研究委員会では、まず、本校児童の実態を（背景も含み）捉えることから始めたいと話し合った。次に課題を明確にしたうえで、それぞれの教職員が創意工夫した取組を進めていき、お互いに話し合うなかでより良い授業を目指していきたいと考えた。教育のプロフェッショナルとして自分自身の力量を高めると共に、子どものより良い変容を図っていきたい。そして、互いの研究を支え合い学び合い高め合っていく教師集団でありたいと思う。

2. 目的 子どもたちに確かな学力をつけるための指導やシステムを協働して探っていく。

3. 研究主題 確かに読む ゆたかに読む
- 「つきたい力」から始まる国語学習 -

4. 設定理由

昨年度より研究教科を国語科とし、まず、基礎の力として主に読解領域の指導研究や教材研究に取り組んできた。そして、以下のような成果があり、課題も残った。

成果 各研究授業では「たしかに読む」学習活動と「ゆたかに読む」学習活動を意識した組み立てが見られた。普段の単元学習でも、つきたい力やどこまで求めるのかを考えて指導するようになった。意識調査（12月）の結果で「国語が好き」と答える児童が昨年度調査より増加しているのは、授業改善が進み、分かる授業・楽しい授業が増えてきた証拠だととらえられる。学力定着調査（2月）でも、18年度は全市平均を上回ったのは二つの学年だけであったが、19年度は四つの学年が全市平均を上回った。下回った学年も0.3と1.9ポイントであり、かなり接近してきている。年間を通じて研究に取り組む中で授業力が高まり、児童の関心や意欲だけでなく、学力も着実に伸ばしてきたと考えられる。

課題 国語に関心がもてない児童（約2割）や国語が苦手と感じる児童（約4割）に対してより丁寧な支援や指導の工夫を重ねていく。

本校児童は、全体的に学習には意欲的だが学力としての定着を見るまでに時間がかかる傾向がある。その実態に即して、定着するまで螺旋的に繰り返すカリキュラム（国語科・帯学習）を編成する。

校内の言語環境整備に努める。

教育活動全般で「言葉の教育」を心がける。

読解の指導をさらに充実させる。

書くことへの苦手意識を取り除く取組をする

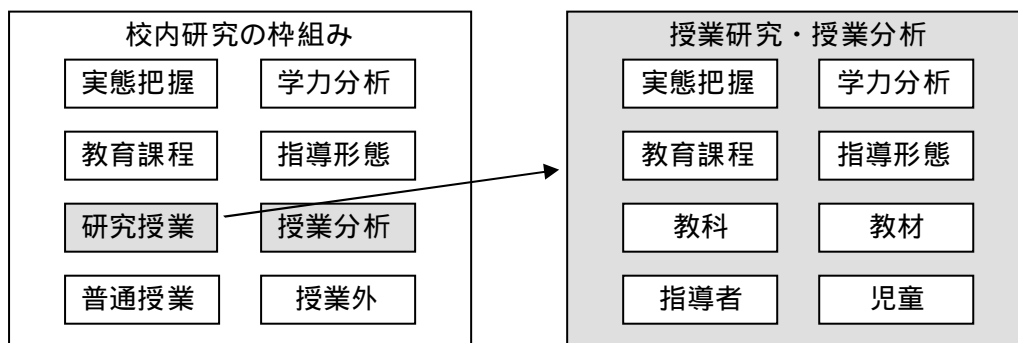
全体総括から 研究の全体総括の中では、まず、成果と課題を踏まえて次年度も引き続き「読むこと」を研究の重点課題として追究していくこととなった。昨年度は、書かれていることを正しく読み取ること（確かに読む）と、その読み取ったことに対して自分の思いや考えをもつこと・それを表現すること（ゆたかに読む）の二点を目指してきた。しかし、具体的イメージを共有する場を充分もつことができなかったという反省もあった。そのため、授業研究の場で「確かに読む」と「ゆたかに読む」の具体的な姿を探りながら本年度も研究を進めていきたい。

次に、「つきたい力を見据えて」や「ねらいを持って」ということの大切さが指摘された。単元構想図を作って児童に学習の入り口と出口、そして学習のプロセスを示すことで、学習の目的が明確になり主体的な学びを引き出すことにつながったという報告もあった。また、読みとったことを表現する手立ての一つである記述力をつけていく必要性も話し合われた。

これらのことから、本年度の研究主題を「確かに読む ゆたかに読む」、サブテーマを「『つきたい力』から始まる国語学習」と設定した。

5. 研究仮説

「つきたい力」から年間指導計画や単元構想を立てることで、毎時間の授業のねらいが明確になり、児童の確かに読む力や豊かに読む力を育てることができるのではないかと。



6. 取組の概要

(1) 授業研究に関わること

全員が研究授業を行う。

授業研究会を行う。(事前・事後)

授業分析力を高める。

形態(従来通り)

(2) 実態分析研究に関わること

児童実態アンケート分析を行う。(11月)

京都市学力定着調査分析を行う。(4月)

全国学力・学習状況調査分析を行う。(6・9月)

分析結果を生かす。

(3) カリキュラム研究に関わること

「国語科でつきたい力」の表を作成して指導計画に反映させる。

「PISA型言語力育成プログラム」を作成して、他教科で生かす。

国語科の基本単元で「単元構想図」を作成する。

設計力と評価力を高める。

7. 組織と機能 研究委員会・研究全体会・研究部会をおく。
- 研究委員会は校内研究の企画推進を担う。
- 研究委員会は、学校長・教頭・教務主任・研究主任・研究委員（各学年）で構成する。（全体会の授業の事前研修には研究委員は参加する。）
- 研究全体会では、全体協議と全体研修，全体授業研究を行う。
- 研究部会は、研究実践を担う。（事後研修の司会や記録も）
- 研究部会として、育成・低（1・2年）・中（3・4年）・高（5・6年）の四部会をおく。
- 必要に応じて、国語部・図書部・学力向上チームと双方向に協力し合う。

8. 年間計画

	月	研究委員会	校内研究会		部会	
			協議・研修	全体授業	部会授業	設定（毎月第一水曜）
研究前期	4	・企画		・研究の進め方	21	・育てたい子ども像 年間カリキュラム（つけたい力） ・実態調査分析（2月の分）
	5	・企画 ・概要HP掲載 ・全体授業事前 育成 30日		・理論研修会（総教セ）15日 ・部会授業研究会 5年い組 26日	13 14	・部会授業研究 事前5年
	6	・全体授業事前 1年い組 16日 5年ろ組 30日		・提案授業（説明文）2日 ・提案授業（書くこと）2日 ・全国実態・状況調査分析 ・全体授業研究会 育成 12日 1年い組 26日 ・部会授業研究会 6年ろ組 17日 3年ろ組 23日		・部会授業研究 事前3年・6年
	7			・全体授業研究会 5年ろ組 11日		
研究後期	8	・全体授業事前		・理論研修会（総教セ）6日 ・教材研修会		・年間カリキュラム と教材研究
	9	・全体授業事前		・全体授業研究会 2年い組 11日予定 6年い組 18日予定 ・部会授業研究会 1年ろ組 17日予定		・部会授業研究
	10	・全体授業事前 ・研発について		・全体授業研究会 4年い組 23日予定 ・部会授業研究会 4年ろ組		・部会授業研究
	11	・冊子原稿（HP）		・全体授業研究会 3年い組 6日予定 ・部会授業研究会 2年ろ組		・冊子原稿
	12			・指導案検討会		・大会授業研究
総括期	1			・指導案校正と冊子作り		・大会授業研究
	2	・総括		・研究のまとめ		・研究提案（大会）
	3	・総括				

部会	目指す子ども像
は・に組	お気に入りの場面をえらぶ。 おはなし絵本に親しむ。
低	書かれていることの大体をとらえ，場面の様子に気づきながら読める子
中	話の中心点がわかり，手がかりになる言葉を見つけて想像しながら読むことができる子
高	ことばを大切にして，文章の内容を確かにとらえ，自分のおもいを広げたり深めたりできる子

月	詩の広場	言葉の広場	スピーチ集会
4	村田	7年・6年	
5	太田		
6	小野	1年・5年	6 / 18 6年
7	仁木		
9	森山	2年・4年	
10	今西		10 / 22 3年
11	西村	3年・はに組	11 / 12 5年
12	月野		12 / 10 2・4年
1	高	1年・5年	
2	太田		2 / 1年
3	村田	7年・6年	